



3. 石油化学

業界動向

海外市場動向～ロシア・ウクライナ問題前の水準に落ち着く

エチレン価格は、原油価格の高騰により2022年4月には1,400ドル/トン弱に上昇しましたが、その後は中国のロックダウンや経済停滞等により誘導品の需要が減少したほか、原油価格が下落したため、10月以降は900ドル/トン前後で推移しました。2023年に入ってから、ゼロコロナ政策の解除を機に、中国内需が回復したため、1,000ドル/トン弱に上昇しました。

国内市場動向～誘導品の需要減によりエチレン生産量減少

2022年通期のエチレン生産量は、中国のロックダウン影響や物価高による日本経済の低迷により、誘導品の需要が減少したことから、5,449千トン（前年比-14.0%）と大幅に減少しました。エチレンセンターの稼働率をみても、2022年8月以降、7カ月連続で好不況の目安とされる90%を下回りました。

今後の見通し

技術革新動向～2050年カーボンニュートラルに向けた取組みの加速

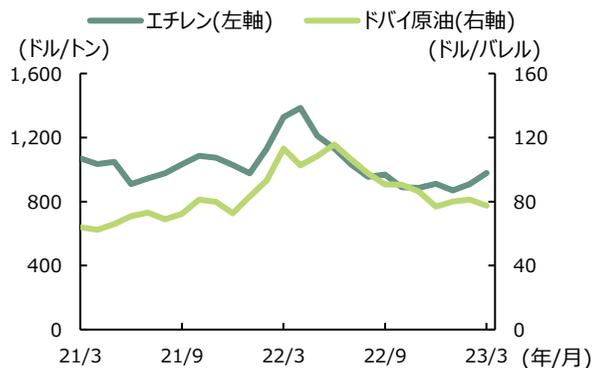
三井化学は、丸善石油化学を含めた3社と、ナフサ分解炉の燃料をアンモニアに転換する技術開発に取り組んでいます。また、住友化学と丸善石油化学は、廃プラスチックからエチレンやプロピレン等を高効率で製造可能な技術を開発しています。このように、カーボンニュートラルに向けた技術開発で、企業間の連携事例が増加しています。

事業構造改革の取組み

脱炭素化の潮流を受けて、三菱ケミカルグループは、2023年度中に、石化・炭素事業を分離し、半導体材料やヘルスケア、EV関連素材事業に注力する方針を掲げています。また、国内需要の減少や中国勢の増産の影響を受けて、三井化学はポリエステル繊維、住友化学はナイロン繊維原料の国内生産から撤退すると公表しました。このように、大手化学メーカーは、事業ポートフォリオを見直し、高収益分野へのシフトを進めています。

図表1 エチレン価格(アジア市況)の推移

～経済停滞等により低迷



出所：Refinitivより弊社作成

図表2 世界の売上高上位10社(ランキング)^(注)

～需要減退と原燃料費高騰の影響で減益

順位	企業名	国	売上高 (億円)	当期純利益 (億円)
1	BASF	独	123,074	▲884
2	Dow	米	75,038	6,042
3	SABIC	サウジ	69,645	5,800
4	LyondellBasell	蘭	66,531	5,119
5	LG Chem	韓	54,386	1,935
6	三菱ケミカルグループ	日	39,769	1,772
7	恒力石化	中	35,884	2,815
8	荣盛石化	中	32,085	2,324
9	万華化学	中	31,656	3,104
10	Sherwin-Williams	米	29,208	2,664

注：上場企業のみ対象

出所：各社アニュアルレポートより弊社作成

図表3 2050年カーボンニュートラルに向けた取組

～企業間の連携が加速

参加企業	概要
三井化学 丸善石油化学 東洋エンジニアリング 双日マシナリー	ナフサ分解炉において、従来メタンを主成分としていた燃料をアンモニアに転換する技術の開発を進めている。
住友化学 丸善石油化学	ポリオレフィン系廃プラスチックから、エチレンやプロピレン等を高効率で直接製造するケミカルリサイクル技術の開発を進めている。
三菱ケミカル 三菱瓦斯化学	CO ₂ から収率高くメタノールを合成する技術、およびエチレンやプロピレンを高収率で製造可能な触媒の開発を進めている。

出所：各社プレスリリースより弊社作成